

## 槇尾川ダム 意見陳述

### 意見陳述者

私は和泉市仏並町大畑（おばたけ）町に住んでおります。この土地で生まれ、育て、きょうに至っております。和泉市のまちづくり協議会、南部地域のダム部会の委員長と大畑（おばたけ）町のダム対策委員会の委員長を務めております。

非常に先ほどから手厳しいご批判がございまして、私は何を言っているかわからんような状態でございますが、ちょうど5年前に先生方の前で意見の陳述をさせていただきました。そして、いかに私たちの求めております槇尾川ダムが重大で必要なものかということをお訴えいたしまして、平成12年12月に事業の継続を認めていただきまして、それから13年3月に、地元主催で大阪府の関係の方々、あるいはまた和泉市の市長はじめ皆さん方、たくさんの来賓をご招待いたしまして、地元挙げて起工式を行いました。

それから13年事業、14年事業、15年事業と用地買収を進めてまいりまして、今現在、約3分の1が残って、約7割は用地買収をしております。3分の1だけ残って、これが16年事業として、すぐにでも用地の買収に入れるように、全ての準備万端が整っております。そしてまた、事業といたしまして、付け替え道路の約1km弱でございますが、既に完成しております。ただ、道路の方が少し遅れているようですが、これは府の事情をもちまして遅れておりますので、よろしくご理解のほどをお願い申し上げます。

私たちの横山地区は、大正の時代から泉州ミカンの本場として栄えてまいりました。そして今もミカンの専業農家はたくさんおります。ほとんどでございます。さきの面整備の話も出ましたですけれども、私たちは決して山林を伐採して面整備をつくっておりません。もとのミカン山を、ひねた木を倒して、新しい木を植え替えておるんです。だから、それは大きな自然破壊にならないと思っております。これは自信を持ってやっております。また、ダムのお話も、本当にいろいろと難しい話からしていただきましたが、我々といたしましては、どうあってもこのダムをつくって、水害防止のために頑張らなくては、子どもたち、また孫たちのために、命の問題でございますので、何としてもやり遂げたいという気持ちでいっぱいあります。

この50年を顧みましても、災害の歴史というものが相当ございます。昭和24年のジェーン台風、風よりもむしろ雨の被害の方が大きかったです。それから27年、非常に大きな洪水が起こりました。家が流され、また家の中には土砂が入り、水が浸って、どうしようもない状態でした。そしてまた、57年には同じような結果で、大阪府から川の改修を大きくやっていただいたんですけども、その効果なくして、たちまち崩壊したような状態でした。57年度には約10kmから15kmの下流の市街地の中でも相当な被害が出ております。

それ以来、私たちがダム委員会をつくったのは平成5年からでございます。その委員会の始まって間もなく、また平成7年度の水害が起こりました。大川橋を中心としたしまして、下の小野田、北田、下宮町。特に下宮町は、非常に泥が上がって、浸水して、家も相当に水びたしになりました。また、大川橋の上流、榎尾山の方でも、橋が8つありますが、またたく間に4つの橋が流れてしまって、あとの橋が全部修復しないと通れないという状態になりました。

最近の気候上昇というんですか、特にこの異常気象と申しますか、雨の振り方がちょっと変わってまいりまして、私たちの民家のところで20mmの雨が降ったら、5km、また6km山の方では50mm、70mmまでの雨が始終降っております。それは、道が川沿いにあるんですけども、川と道がどこが境目かわかんように、全く土石流になって、鉄砲水となってやってまいります。そのときには、音を立てて来るものですから、子どももなにも青ざめておるんです。こういうような状態をいつまでも我々としては続けられないんです。いろいろのお話、先ほどございましたけれども、私たちは命をかけてやっております。何とか先生方には、ぜひともこの事業完遂のためにもう一度ご尽力をいただきたいと思っております。

また、最近、平成12年にも大きな山火事がございました。50年間に4回目の火事があります、1週間近く燃えた火事ですね。これは、山のすその方から突然火が上がりまして、風に乗って、またたく間に尾根に上がりまして、尾根から尾根に移りまして、和泉市一円から消防の車を応援に駆けつけていただいたんですけども、何分山が高いものですから、ホースは足りない。3台くらいホースを継いでも水が届かない。やむなくヘリコプターを2機要請したんですけども、水資源が遠いものですから、4機を呼び、5機を呼んで、8日目に雨に助けられて、両方の形で消火したとい

うような格好でございます。

後の新聞紙上では26haと申しましたけれども、私ら実際に友だちと焼け跡を歩きまわして、40町歩をはるかに超えたなど。そしてまた、ノウサギやキツネがころころと死んでいました。私は、ダムをつくることによりまして、自然の破壊は少しはあるかもしれませんが、やはり和泉市全域の山々はこのダム1つで守られるのだなと思ったら、なるべく早くやりたい。そしてまた、消火した後で、ダムさえあったらということは、みんな口々に言いました。私は胸に針を刺されるような思いがしたわけでございます。

どうぞひとつ槇尾川ダムを、我々にしたら、どう考えてもダムしかこの土地を守る方法がないんです。何とかひとつよろしくお願い申し上げたいと思います。

なお、意見陳述から一般府民の募集をいたしまして、私たち町会12町村、1週間の期間をもって署名運動をいたしました。3,600も署名されております。みんなで心を込めて署名いたしました。これは地域の横山校区の7割5分の署名であります。特に大畑（おばたけ）、仏並、坪井町のダム直下の村は全員挙ってやっております。どうかひとつ、いろいろとまだ申し上げたい点もございますが、あまり極端な話がさっきも出ておりましたので、私たちは約100名ほどのダム対策委員会があります。ただ何かあるごとに一つになって、そのきずなはだんだんと深くなっております。私自身も既に70でございます。残る生涯を全力挙げてこのダム事業に突っ込みたいと思っておりますので、どうか先生方、よろしくご理解をいただきまして、ご指導いただけますよう、心からお願い申し上げます、私の意見陳述を終わります。

本日は此の様な機会をいただきまして深く御礼申し上げます。ありがとうございます。